

じいちゃんが教えてくれた
野球という「宝物」



祖父の保男さん(左)とスポ少の野球試合を見る銀次君(右)



普代スポ少のとき下関伊の大会で入場行進をする銀次君（左から3番目）

プロへのあこがれ

これも保男さんの影響だろう
うか。銀次君は保男さんが以

澤俊明さん（当時普代小学校長・現遠野北小学校長）は「彼はガラスを割るたびに謝りに来ていました。何回もです。そんな彼の誠実さを思います」と振り返っていた。

は保男さんが同少年団の監督になり指揮を執った。銀次君は保男さんの指導で、その才能を磨いていった。

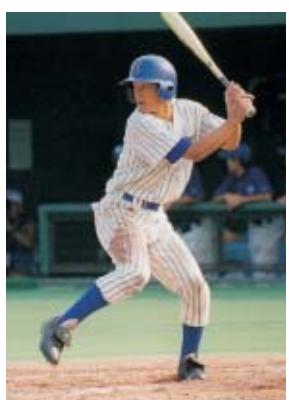
当時団長を務めた太田和弘さん（50・太田名部）は「ス ポ少の練習は学校の校庭でやつていましたが、打撃の鋭い銀次にはよく校舎のガラスを壊されました。どうにかしなければと思い、何人かで浜で

前キヤツチャーをしていたこともあり、キヤツチャーとうボジションを次第に練習するようになつた。

このころから心の隅に「プロの野球選手になりたい」といった漠然とした夢が芽生え、たと彼は言う。そんな銀次君に保男さんは「プロになるなら、人と同じことをしていくは駄目だ。それ以上の努力を常にしないとプロにはなれないぞ」と言つた。この言葉をかみしめ、ひたすら練習に明け暮れる日々が続いた。

そして、野球という宝物を探しに、普代中学校に進んだ。

前キヤツチャーをしていたこともあり、キヤツチャーといふポジションを次第に練習するようになった。



写真提供／畠山保男さん(緑区)